

2007
Vol. 4
THE BSSC JOURNAL
通巻4号 2007年7月25日発行



びわこ成蹊スポーツ大学新聞 *Biwako Seikei Sport College*

THE BSSC JOURNAL

びわこ成蹊スポーツ大学の「今」を伝える © びわこ成蹊スポーツ大学新聞編集部 発行＝びわこ成蹊スポーツ大学メディア研究会 〒520-0503 大津市北比良1204番地 <http://www.bsscjournal.net/>

夢は北京の舞台



夢

目標は大学日本一へー 5勝2敗2分け（勝ち点17）のうち、最終戦の大院大をのぞいた6試合が逆転で勝つか、引き分けた戦いで、松田監督の信念である「互いをサポートしあう組織の力で戦う」スタイルは、欧州で主流のトータルサッカーが根底になつていた。しかし、その組織力も王座争いは、最終節で首位争いが最終の大院大戦で5得点を奪って総得点の差で創部初の栄冠をつかんだ。2部落ちした昨春のリーグから1年でたくましく魅了り、歴史の一步を記した足跡を振り返ってみた。

地元紙が「ミラクル」と賞賛した優勝は、「粘り強さ」が大きな特色だった。



歴史の一步を記した初優勝

点差以上が初優勝への絶対条件という厳しい状況だった。だから、大院大を迎えた5月20日の決戦で、ピッチに立つ選手も応援する者もその頭に「優勝」という文字は浮かんでこなかった。前半13分、FW永井が先制ゴールをあげ、28分に左サイド攻撃から再び永井が追加点をあげた。前半を2-0の優位で折り返したが、さらに3得点の加点はまだ大きな壁のように立ちかかっていた。後半、知略を絞った松田監督が的確な交代策で選手を鼓舞する。MF瀬古のゴールで3点目をあげたあと、投入されたFW阪田が28分に4点目をあげ、終了寸前の43分にも途中出場したMF佐藤が初優勝をたぐりよせる5点目を奪った。勝負の世界で

は、しばしば「無欲の勝利」という言葉が使われるが、この決戦では選手を束ねる指揮官とその相互信頼が想像を超えた力を引き出したともいえる。

高校時代に華やかな活躍をした選手もいなければ、伝統チームのような恵まれた施設もないかわり、びわこには芽生えた「雑草のたくましさ」がある。200人を超える選手が練習に励むグラウンドは、開学当初、土のグラウンド計画だったのが、豊田一成・前学科長や松田監督の尽力で人工芝のピッチが実現し、選手はトップチームのほかに下部のリーグや社会人リーグ、さらに指導者や審判育成などサッカーといつも向き合える環境がある。創部5年の異例ともいえる速さで関

に向かって羽ばたく

シンクロの青木愛さん（4年）があと1年を切った北京五輪の出場を目指している。「待ち望んでいた夢の舞台です」と青木さんは、6月上旬から東京で始まった強化合宿に意欲を燃やして挑んでいる。青木さんが情熱をかける日本のシンクロは、世界に誇る「美」と「技」で五輪のメダル有望種目の一つ。北京の前哨戦といわれた昨年の世界選手権（メルボルン）フリーコンビネーションに出場した青木さんは、銀メダル獲得に貢献。北京五輪に向けて大きな自信をつけた。

た。「五輪出場には世界よりもまず、国内にいるライバルに勝って代表に選ばなければならない。普段の練習と合宿の成果が問われる厳しい関門を突破して初めて五輪の舞台がみえてくる」と気持ちを引き締める。美しい水中花に例えられるシンクロは、見た目の華やかさの裏に強靱な体力と精神力、集中力を競う過酷さを併せ持った競技である。88年ソウル五輪のシンクロで銅メダルを獲得した小谷実可子さんは、男子マラソン選手並の心肺機能を持ったスーパースターで、それに開催国中国も日



本の井村コーチの手ほどきを受けて強くなっているから。油断大敵の言葉をかみしめながら、北京に胸を躍らせている。

記者の目



大学を卒業したら、何の仕事につきたい？

突然、そう聞かれて、すぐに答えられますか。

「息子になって欲しい職業」を親に尋ねる民間調査がよくあるが、公務員が1位で、2位がプロスポーツ選手という結果が多い。安定志向の役人と、華やかで高給取りのイメージが強いプロスポーツ選手。堅実と夢のはざまで揺れる親心を投影しているのだろうか。

4月、10代のトップアスリート取材する機会があった。

昨夏の甲子園で脚光を浴びたハンカチ王子こと斎藤佑樹と、卓球の天才少女として、4歳からお茶の間のアイドルだった

明快な目標を持つ

福原愛。早大に入学した2人は、大学に進んだ理由を、こう話した。

福原は「卓球ばかりだと、引退した後にすぐくつらな人生になると思う。卓球バカになるのはイヤだった。幼い頃から「プロ」として活動する福原は、競技一辺倒ではなく、教養を身につけることの大切さを感じ始めている。

斎藤は「プロ野球選手が目標ですけど、引退した後第2の人生も考えて。もちろん、野球で活躍して一生涯らせれば良いですけど。教員とかメディア関係も」。大学経由でプロをめざしつつ、将来の選択肢を広げる堅実さをあわせもつ。

若くして活躍するトップアスリートたちは、同年代の友人に比べて、早い時期に進路を決める分岐点に立っている。高校、大学とプロへの

で近大に0-1で惜敗。3位決定戦も1-2で大体大に苦杯。大学日本一をかけた総理大臣杯への出場を逃した。松田監督は「まだ、うちのチームは途上の段階だということを選手みんなが思い知った。平常心で戦うことを忘れたため、ミスが多かった。大事な舞台で普段の実力を発揮できないチームでなければ、その強さはホンモノとはいえない」と厳しい目を向けた。秋季リーグはびわスポの真価が問われる。春秋のリーグ連覇が大きな目標になる。関西ナインバーワンから大学日本一という大きな夢に掲げるチームは、9月に韓国遠征のあと、来春に欧

州サッカーの本場、スペイン合宿も計画している。日本から世界へとチームは大きく羽ばた

サッカー部リーグ表

順位	勝	負	分	得点	失点	勝点
びわこ大	5	2	2	20	15	17
大体大	5	2	2	12	7	17
桃山大	4	2	3	18	13	15
京産大	3	2	4	18	12	13
近畿大	4	4	1	14	17	13
関学大	3	3	3	12	11	12
関西大	3	4	2	16	14	11
大院大	3	5	1	8	19	10
阪南大	1	3	5	13	18	8
立命大	2	6	1	12	17	7

標への最短距離を突き進む、思い切りの良さが感じられる。

3年前に出版され、ベストセラーになった「13歳のハローワーク」（村上龍著、幻冬舎）は、子どもたちの好奇心を刺激し、早い時期に将来の職業を考える手助けになればとの願いから世に出た。大企業に就職できたから安泰という時代ではない。明日が読みにくい社会だからこそ、本気で没頭できる何かを見つけたら、幸せだ。

10代から活躍するトップアスリートに共通していたのは、「何をやりたいか」という目標設定が、明快なこと。それはスポーツに限らず、一般社会に置き換えても、きつと大切なことなんだと思う。

（朝日新聞東京本社スポーツ部記者 稲垣康介）

硬式野球部

Baseball

「昔からピンチを楽しんで投げていた」そう語るのは1年生の主力投手でもある成宮翔磨。

高3の夏、滋賀県の名門八幡商業のエースとして甲子園のマウンドで堂々たる投球を披露した。

大学に入学し春休みからすぐに野球部に合流、春季リーグに向け練習に励んだ。オープン戦で感覚を戻し、制球力をつけるためブルペンでの投げ込みや下半身強化のためのダッシュに汗を流し今春のリーグ戦に挑んだ。試合では強心臓ぶりを発揮し、定められた制球と落ち着いたプレーでチ

ームの1部残留に大きく貢献。更にはリーグ戦で活躍したことが評価され1年生ながら京滋リーグ選抜に抜擢された。その時の心境を「正直僕が選ばれて良かったのだから」と少し控えめに語っているが、その言葉にはどこか余裕も伺えられた。



今春のリーグ戦でもう1人注目を浴びたのが後藤哲也である。京滋リーグでベストナイン、京滋リーグ選抜にも選ばれた。

女子バレーボール部

Volleyball

期待の新星が現れた。1年の若林恵美である。高校まではセンターでプレーしていたのだが、大学入学と同時に安定した得点力が求められ、チームのエースア

タッカーが置かれるレフトに転向。まだまだ不慣れなポジションだというが、将来はチームの核となつて活躍が期待できる。チームは関西女子春季リ

グの4部開幕戦で、姉妹校である大阪成蹊短大戦で勝利を収めると、その後も破竹の快進撃。リーグ戦を全勝優勝で飾り、3部昇格を果たした。

ボクシング部

Boxing

総勢13名の部員がダンスホールで汗を流している。危険なスポーツと思われるが、基本的なボクシングだが、基本技術を学びさえすれば危険性は減る。シンプルなイメ

ージもあるが、パンチやデフエンス、ステップの種類は多く、とても奥が深い。活動内容は女性でも行えるボクササイズもあり、女性部員も募集中。実際に拳を

交えた実践練習は、幅広く誰もが楽しめ、心身を鍛えるのにぴったりのスポーツである。今後の目標は、大学リーグ参戦を合言葉に活動の輪を広げていく。

柔道部

Judo



4人と少人数ではあるが、顧問に村田正夫先生を迎え、日々練習に取り組んでいる柔道部。そんな柔道部の練習は、「一本」を取れる技を作る為に徹底的な打ち込みや実戦に近い練習を行っている。練習を視察した日も2時間弱だった練習の1時間半以上を打ち込みに費やしているのだが、その練習の効果が早くも出ている。

皆さんは女子柔道に3人制の団体戦があることをご存知だろうか？部員が少ない柔道部ではあるが、この3人制の団体戦に2人出場し、相手に不戦勝で1勝を与えながら、見事初戦を

突破して大会ベスト8を飾っている。惜しくも準々決勝で今大会の優勝校の湊川短期大学に敗れたが、大きな一歩を踏み出している。試合後には選手達にレポートを提出させ、徹底して意識を持つように促している。村田先生は「大会に出

て、初戦を突破して本人達の出稽古も積極的に行っている。惜しくも準々決勝で今大会の優勝校の湊川短期大学に敗れたが、大きな一歩を踏み出している。試合後には選手達にレポートを提出させ、徹底して意識を持つように促している。村田先生は「大会に出

アルティメット部

Ultimate



一見マイナースポーツと思われるが、欧州や北欧では競技者も多く世界大会も行われており、昨年は日本が優勝している。その日本アルティメット界の中でもびわろスポ大は、昨年の新人戦日本一に輝き、今春も関西オープン優勝、レディース準優勝の快進撃。国内では先駆者の存在として脚光を集め、入部希望の新人生も多い。チームの大黒柱は、昨年の新人戦優勝に大きく貢献した主将の北川翔太。1、2年生主体の若いチームの牽引車になり、競技の普及とレベル向上に情熱を燃やしている。

硬式テニス部

Tennis

関西学生春季テニスストーナメントでインカレ出場という輝かしい成績を収め、硬式テニス部の中心選手として活躍するのは加藤乃己である。今年も関西の大会で優勝、インカレで上位進出することを視野に入れ、在学中に全日本選手権の出場を果たすという大きな目標を持つ。彼は「この大規模な目標の達成に向け、練習を常に100%で出来るよう、自分に厳しくしていきたい。もちろん個人のみを意識するのではなくチームの試合では自分は絶対勝って役割を果たし、練習では全員の力の向上に向けチームを引っ張れる存在になりたい」と力強く語る。その言葉に責任感あふれる彼の頼もしさが伺える。今後チームの中で言葉通りの存在となり得るのか楽しみである。

硬式テニス部は女子が2部へ、男子が4部への昇格を目指している。コート内では皆が自分に厳しく引き締めた、勝ちにこだわるテニスをするため限られた時間の中で精一杯練習に励んでいる。その努力がやがて実を結ぶ日も近い。

ボート部

Boat

現在部員7名のボート部は個人で練習することが多い。大学の講義が終わり次第トレーニングルームで筋力作りを励むほか、関西ボートのメッカといわれる瀬田川びわこ漕艇場に足を運んでオールを握る。練習日程や時間も各自で設定し、その内容や課題も独自で工夫し8月の全日本インカレ上位入

賞を目標に掲げる。自分の意思ひとつで厳しくも甘くもなる環境の中、今春の朝日レガッタ選手権大会一般男子の部で舵手つきフォアに出場した梅田康弘が準決勝進出を果たした。これは梅田が自主性を重んじ取り組んできた自分に厳し

く姿勢が反映された結果だろう。その梅田は、瀬田工高時代の後輩で1年の川原とダブルスカルを組み8月のインカレで上位入賞を狙う。全国にびわろスポ大の名を広め、ボート部の認知度をあげたい、という。川原も高校時代に朝日レガッタ選手権ダブルスカルでの優勝経験を持つなど、輝かしい実績を誇るだけに大きな期待がかかる。

部活の

各部紹介

バスケットボール部

Basketball

今春の全関西選手権と西日本学生選手権に出場したが、男女ともいずれも3回戦で敗退した。筑波大で女子を大学日本一に導いた佐々木直基コーチが今春から男子、女子を指導。秋季リーグで1部昇格を目標に掲げる。創部5年目で男子は4部リーグからスタートし順調に2部までステップアップしたが、1部リーグの壁は厚い。

「経験さえ積みめば、目標は手の届くところにある」といわれ、夏合宿の成果に期待をかけている。



ソフトボール部

Softball

今春の関西学生リーグ2部で2位の大躍進。創部からの目標に掲げた1部昇格を果たした。主将奥村まゆみ、投手賞1位に輝いた石崎菜穂子、ベストプレー賞に輝いた奥村さゆりを中心に

に鉄壁の守備とチャンスに強い打撃陣が奮起した。部員12人の小所帯で練習も決して恵まれた状況ではないが、チーム一丸となって苦勞した分、そのがんばりが、昇格というビッグなプレゼ

フィギュアスケート部

Figure Skating



今春入学した山根千加子さんは、びわスポで唯一の女子フィギュアに情熱を燃やすフレッシュウーマンだ。京都・高野リンクで小学3年からフィギュアを始めて競技歴は10年になる。「得意なジャンプはトリプルサルコ」と誇らしげだが、大学にスケート部がないため、大津市瀬田のアイスアリーナで個人レッスンを受けているインカレ、日本選手権、国体出場を目指して

いる。「インカレ出場には連盟登録が必要なんだけど、うちには残念ながら部活がないんです。フィギュア部をぜひつくりたい」。フィギュアの練習は、華やかな演技から想像も

できないほど過酷。山根さんがレッスンに励む瀬田のリンクは早朝や夜間の練習がほとんど。早いときは午前5時ごろから練習が始まる。京都の自宅を午前4時に出て、練習をこなしたと大学へかけつける。滑走だけでなく、ジャズダンスも習うほか、ジムでウエイトトレーニングにも汗を流す。「激しくてメリハリの利いたリズムで男っぽい振り付けの演技が得意」というが、フィギュアはルールが大幅に改正され、芸術性



ソフトテニス部

Soft Tennis

サークル活動でスタートしたソフトテニスは、昨春から正式な部活を展開。4月の新入部員を含めて16人の所帯になったが、男子は1年生6人の加入で今春から関西学生リーグへの出場が認められた。リーグ参戦は創部からの夢であり、部

全体の意識も高まった。「ソフト」にふさわしく、男女共仲良しグループが自慢だが、コートに立つと気持を切り替えて週3回、1日3時間の猛練習に励んでいる。「まだ部に昇格して間もないのではつきりとした目

バドミントン部

Badminton

練習は毎週月・水・金の4限目終了後にメインアリーナで行っているが、廣田雅也(2年生)によると、部員は男女合わせて10人少ない。とくに男子は3人しかいないため、団体戦に出場することができないのが大きな悩み。今年の入部者も1人だけで、廣田雅也は「経験・未経験に関係なく入部者を募集している」

とPR。技術の習得、心身の強化を目的として練習を行っているが、大学内にとどまらず、今までお世話になった母校や他大学にも出て行き、自分のレベルを上げていきたいととても意欲的だ。今後の目標としてまずは秋季に行われる新人戦の個人戦で勝つことを目指している。



ラグビー部

Rugby

関西Dリーグ最下位で06年を終えたが、今年こそ一つ上のリーグへ昇格を目指すとして猛練習に励んでいる。なかでも、編入で今春入学してきたスクラムハーフの山田勇太郎に期待がかか

る。4歳からラグビーを始め、その他に水泳、陸上もやっていたが、中学時代に兵庫スクール選抜に選出されたのをきっかけに、高校からラグビー一筋に打ち込

んでいる。昨年、社会人チームでプレーし、関西Aリーグでの試合経験もある。また、兵庫クラブ選抜や国体強化選手に選ばれた山田の持味は、相手を翻弄するゲームメイクと正確なパスだ。

しかし、びわスポのラグビー部は人数不足のため、リーグ戦など公式大会に参加ができず、山田は「新入生の入部を切望している」という。部員確保に山田自

少林寺拳法部

Shorinji Kempo



昨年の滋賀県民大会で男子は、段外の部で優勝。女子も今春の関西学生大会段外の部で5位など優秀な成績を収めている。誰か1人が優勝するのではなく、部員全員が入賞できるように部全体を高めるために努力をしている結果だ。注目選手は「部員全員」という答えが返ってくるのも、個人の力が成績を大きく変える中で選手同士が切磋琢磨し

ている姿勢がうかがえる。今年の大きな目標に全日本学生大会をあげている。しかし、競技会や練習だけにとどまらず活動は多彩。1ヶ月に1回のボランティア奉仕や3月の合宿では大学から4日間かけて少林寺拳法総本山で発祥地でもある香川県多度津町まで約170キロの道のりを歩き心身を鍛えている。

Futsal

フットサル部

鈴山隼外主将を中心に全員攻撃全員守備を徹底。まとまったチーム力を発揮して6月3日、滋賀県立大体育館で行われた全日本大学フットサル大会滋賀予選で1位になり、7月22日に開かれる関西大会出場権を獲得した。練習はマルチアリーナで週4日、1日3時間汗を流している。フットサルは狭いスペースの中でプレーするので、パスの正確さ何よりも要求される。練習では声出し、パスのコントロールを強く意識しながら、連係プレーに力を入れる。「社会人チームを含めたすべての滋賀県チームの中でNo.1になるという目標を達成させるため、滋賀県FAフットサル1部リーグという4月から12月までの長期リーグを主将という使命を背負いこれまで以上のチーム力を発揮し、ゲームメイクに力を出せるよう頑張るので期待してほしい」と鈴山は語る。

Track and Field

陸上競技部

4月14日、15日と行われた京都学生選手権の男子棒高跳びで三添章悟(3年)が優勝。この勢いに乗って三添は、5月の関西学生選手権の男子2部では5m00の大会新で制覇。全国大会の参加標準記録を達成し、初の全国大会出場を決めた。初出場となった本番の日本学生選手権の舞台は、4m80と自己記録にも及ばずに20位に終わり、実力を発揮することができなかった。キャンパスではコーチング・技術コースを専攻し、コーチング技術やメンタルトレーニングなど自分のレベルアップにも役立つ一石二鳥の勉強に励み、アスリートではなく指導者としての視点でも考えるようになってきた。学校で得た知識を棒高跳びにも取り入れることで、記録の向上と同時にトップの仲間入りを目指している。

教育振興会総会を開催

去る6月9日(土)に大学の本部棟会議室において、2007年度教育振興会総会を開催しました。総会では、2006年度の決算報告、2007年度の予算案、新規役員の選出等を行い、決算書、予算書は了承されました。

2006年度決算報告書

●収入の部

(単位:千円)

	金額	備考
前年度繰越金	2,935	2005年度繰越金
会費	18,760	会員 938名の会費
その他	1,008	積立金からの戻入及び利息
	22,703	

●支出の部

	金額	備考
(1)教育・研究に関する支援	1,750	教育用備品購入他
(2)学生の学習環境の整備に関する支援	2,500	新講義棟用備品他
(3)学生の福利厚生に関する支援	8,300	奨学金・激励金他
(4)学生のクラブ活動に関する支援	5,000	クラブ活動補助他
(5)その他振興会の目的に必要な事業	2,220	総会・大学新聞発行補助他
(6)予備費	100	
(7)積立金	2,000	
(8)次年度繰越金	833	
	22,703	

2007年度役員一覧

会長	松田 裕之(2年)	会計監査	正者 充朗(3年)
副会長	今井 妙子(3年)	会計監査	田村 治平(2年)
副会長	伊藤 清治(3年)	幹事	長 伊久男(1年)
会計	谷川 尚己(2年)	幹事	芝原 英行(1年)
会計	小谷 文彦(1年)		

